

YAMAGUCHI UNIVERSITY

1. 2013年度の現地調査目的

上位目標：
ラオスの河川工学技術が発展し、河川工学を専門とした学識者や技術者が育つこと。

本プロジェクトの目的：

- ① 山口大学の水環境や気候変動の教育・研究実績をメコン河中流域（ラオス）に適用し、本地域での河川工学等の学問の発展に積極的に貢献する。
- ② これまであまり対象とされていなかったメコン河中流域における研究を推進する。
- ③ ラオス国からの留学生受入等を通じた人材育成を推進する。

2012年度の調査目的：（同行者：社会人マスター1期の村岡和清氏（国土交通省））

- ① メコン河中流域の河川の状況や灌漑等の整備状況を把握する。
- ② カウンターパートとなりうるラオス公共事業省河川局の職員とメコン河の河川整備の現状と問題点について意見交換を行う。
- ③ 水文データ、測量等の河川に関するデータの整備状況について調査把握し、今後のデータ提供についてカウンターパートの口頭約束をとりつける。

2013年度の調査目的：（同行者：社会人ドクター2年の池田誠氏（アジア防災センター））

当初、村岡氏が同行予定であったが現業の都合によりアジア防災センターの池田誠氏に変更

- ① 今後の協力体制を構築するためにラオス国立大学工学部土木工学科を訪問。教員と学生にビエンチャン市内の冠蓋シミュレーションのレクチャーを行う。
- ② ビエンチャン市内のメコン河近傍の小中学校を訪問し、防災教育の実施状況についてヒアリング。

2014年度の調査目的：（同行者予定：社会人ドクター（今年度休学中）の池田誠氏）

- ① ラオス国立大学工学部土木工学科を訪問。
- ② 小中学校を訪問し防災授業を実施する。その効果について評価する。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

プロジェクトの期待される効果：

- ◆ 山口大学へモチベーションの高い優秀なラオスの学生を受け入れるきっかけとすることができる。
- ◆ 国際的視野と実践能力を持ち、国際的に活躍できる日本人学生を育成するための教育研究環境を整備し、本学の国際化や国際競争力の向上を図ることができる。
- ◆ ラオスの防災対策に貢献する。

ゆくゆくはアジア地域の防災に山口大学が貢献できるシステムを構築する。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

2. 行程

2014年

3月17日 福岡 → バンコク → ビエンチャン

3月18日

ラオス国立大学工学部長表敬
ラオス国立大学工学部土木環境工学科長表敬
ラオス国立大学工学部にて講演

3月19日

教育庁訪問表敬
シクハイ中学校訪問およびヒアリング
カオライ中学校訪問およびヒアリング
JICAラオス表敬

帰路 ビエンチャン → バンコク → 福岡

3月20日 早朝福岡着



YAMAGUCHI UNIVERSITY

3. ラオス国立大学

左:工学部長(Prof. Bounhinh Soysouvanh)
右:Dr. Bounheng Southichak

ラオス・カンボジア留学フェア期間
平成23年10月16日(日)～10月24日(月)

YAMAGUCHI UNIVERSITY



スダリーさん
山大・経済・修士

ラオス国立大学
Dr. Bounheng Southichak
東北大学で博士(工学)取得
専門:環境工学

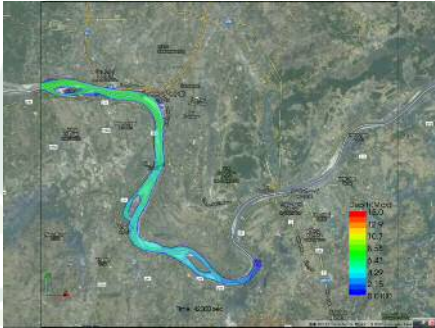
YAMAGUCHI UNIVERSITY



講演の様子

講演題目: Introduction of the Technology of Flood Disaster Mitigation on River Engineering ~ Mekong Flood in 2008 ~

Applied Techniques of Hydraulic Engineering
An example of inundation simulation of Mekong River in Vientiane



YAMAGUCHI UNIVERSITY



池田氏

ラオス国立大学工学部土木環境工学科の教員

活動実績(2011-2013: ADRC) YAMAGUCHI UNIVERSITY

ラオス国において、学校レベルにおける早急な防災対策(教員に対するトレーニング、生徒に対する講義、避難訓練の実践、教材開発)が求められている。

アジア防災センター(ADRC)は2011年以降、教育省と連携して継続的に防災教育支援を行ってきた。

2011 2012 2013



教育省へ向けた事業説明と防災に関する講義と意見交換

ビエンチャンの各学校の教員を招聘しトレーニングを実施(複数回)

ビエンチャン市内の学校においてトレーニングを受けた教員が実際に防災教育事業を実施

YAMAGUCHI UNIVERSITY



② カオライ(Khaoioiy)中学校

① シクハイ(Sikhai)中学校

【学校訪問と教員へのインタビュー:2014年3月19日】

① シクハイ(Sikhai)中学校

教頭ほか2名の教員に対して、ADRCの活動後、独自で行ってきた防災教育事業、課題等について意見交換を行った。同校は昨年9月にメコン川氾濫による洪水被害を受けていたこともあり、教員および生徒の防災意識は高く、独自で積極的に防災教育活動を行っていることがわかった。一方で、さらなる教員の能力向上を目的とした教員研修の実施を求める意見があった。



【学校訪問と教員へのインタビュー:2014年3月19日】

② カオライ(KhaoLoiy)中学校

校長ほか4名の教員に出席をいただき、ADRCの活動後、独自で行ってきた防災教育事業、課題等について意見交換を行った。同校はGrade1から4のクラス別に防災教育担当職員を設定(校長も担当の一人)し、それぞれの教員が洪水を中心とした防災教区活動を行っていることがわかった。一方で、シクハイ中学校と同様に、さらなる教員の能力向上を目的に、上記事業で行った教員研修の実施を求める意見があった。



今度の活動

■ ADRCが実施した教員訓練や学校での防災活動から約1年が経過する。

事業実施から教員及び生徒の防災に対する意識はどのように変化したが、アンケートを用いて量的に評価する。

■ 評価においては、**実施した事業の効果性、現状の課題、今後の学校防災教育において求められていることを検討し、整理する。**



2011年から2013年の学校防災教育活動

1年が経過

事業実施の効果は？
継続的に独自で防災教育を行っている？
現状の課題は？
防災意識に有効な要因は？
教員、生徒の関心は？

インタビューやアンケートで調査する

2014年の活動予定

6. 今後の予定(課題)

◆ ラオスのメコン河流域では、電力ダム開発計画が多数に存在し、現在建設中のダムも存在する(メコン河本川のサイニャブリダムなど)。これらの開発の影響を予測するための、モデル構築が急がれる。土砂収支や河床変動などの影響予測のため、不足データを取得する必要がある(山口大学理工学研究科の研究実績を適用可)

例: 濁度、河川測量、流量データ等の取得

- ◆ 数値モデルの構築によるJICAプロジェクト(水制工)の効果検証を行う。JICAの取り組みの学術面からのバックアップ-国際協力への貢献
- ◆ 現地での河川工学セミナー実施(ラオス公共事業省河川局 → ラオス国立大学)
- ◆ カウンターパートとのコミュニケーションを充実させる。
- ◆ ラオス気象水文局へも協力を依頼する。
- ◆ 学部学生または大学院生を本プロジェクトへ参画させ、国際分野に興味を持ってもらう。
- ◆ 奨学金を準備し、優秀なラオスの学生を山大到留学生させる。